

4月

カトリック麹町教会

MAGIS

マジス = 「より、もっと、さらに」

教会テーマ さあ出かけよう 心をつないで イエスとともに ~希望に錨を下ろして~

主のご復活おめでと〜うごぞいませ

主任司祭 高祖敏明



照)―主の約束の

「週の初めの日の夕方、イエスが来て真ん中に立ち、『あなたがたに平和があるように』と言われた。そう言っ、手とわき腹とをお見せになった。弟子たちは、主を見て喜んだ」(ヨハネ20:19-20)

主イエス自らが十字架にかかって私たちに恵まれた「主の平和」が、一人ひとりの心に届き、「新しい天と新しい地」への希望と癒しが地球全体に染みわたりますように、思いを込めて祈り合ひましょう。

やむことを知らない戦火、拡大する社会の分断と経済的格差、深まる政治不信と社会の不安定化、強まる自

国第一主義とSNSによる真偽を問わない情報拡散など。これらは福音が伝える「終末」の様相なのか、あるいは「産みの苦しみ」なのでしょうか。

2025聖年のモットーは「希望の巡礼者」。教皇フランシスコは大勅書『希望は欺かない』の結びで、次のように祈っておられます。

「(このたびの)聖年は、ついでることのない希望、神への希望を際立たせる聖なる年です。この聖年が、教会と社会とに、人間どうしのかかわりに、国際関係に、すべての人の尊厳の促進に、被造界の保護に、なくてはならない信頼を取り戻せるよう、わたしたちを助けてくれますように。信じる者のあかしが、この世におけるまことの希望のパン種となり、新しい天と新しい地(二ペトロ3:13参照)―主の約束の

実現へと向かう、諸国民が正義と調和のうちに住まう場所―を告げるものとなりますように」

冒頭に引用したヨハネ福音書は、「イエスは重ねて言われた。『あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす』(ヨハネ20:21)と続けました。そして、派遣の使命を生き、あかしを果たすために聖霊を与えられました。

「希望の巡礼者」として歩むのは個人も共同体も同じです。ともに「この世におけるまことの希望のパン種」となるあかしを告げるよう派遣されています。

私たちの聖イグナチオ教会共同体も、「ミッション2030」を踏まえてビジョンを明確にし、パストラプラン(司牧宣教方針)を定める体制を整えようとしています。シノドスの手法になら、「この世におけるまことの希望のパン種」となって、あかしを告げるインターナショナルな共同体に成長する道筋を、聖霊の導きを識別しながら見出していく。

そのため、①本年の教会

| | |
|--------------------------------|----|
| 教会報 MAGIS 4月号 | |
| † 2025年度教会テーマ | P2 |
| † 現聖堂25周年 感謝のうちに閉幕 | P3 |
| † 中長期計画策定準備委員会発足 | P3 |
| † 3月の主な教会行事報告 | P4 |
| † つながるプロジェクト 最終回 | P4 |
| † 〈現聖堂25周年記念連載〉⑩ | P5 |
| † 〈現聖堂25周年記念連載〉最終回 | P6 |
| † Family of St.Ignatius | P7 |
| ~英語圏から~ | |

【4月の共同祈願】

復活の主日(4月20日)

四旬節

祈りと節制と愛のわざに励んだ私たちに

主は復活されました。

復活されたイエス様からの
愛とゆるしを伝える私たちに出来ますように。

復活節第2主日(4月27日)~第6主日(5月25日)

新受洗者と共に祈ります。

神様の子となり新しいのちをいただいた喜びを

皆が感じられますように。

それぞれの言葉で復活祭を祝う私たちが
一步一步、キリストの弟子として歩めますように。

宣教司牧評議会より

2025年度教会テーマ決定

2024年度信徒代表

2025年度教会テーマは

「さあ出かけよう 心をつないで
イエスとともに」希望
に錨を下ろして」です。

どこかで耳にしたことのある
言い回し:「さあ、立て。ここ
から出かけよう」(ヨハネ14:31)
とイエス様は弟子たちを誘います。
この前後を見てみますと、「わたしは、平和を

2025年度教会テーマ

さあ出かけよう 心をつないで

イエスとともに

~ 希望に錨を下ろして ~

あなたがたに残し、わたしの
平和を与える」(ヨハネ14:27)
とイエス様は弟子たちに
力強く宣言します。しかし、
この「出かけよう」(ヨハネ
14:31)の後、イエス様ご自身
が捕らえられて十字架へと
向かい、弟子たちもつらい思
いを味わいます。

ところで、私たちは、なぜ、
どこへ出かけるのでしょうか。
「このころをつないで」(作
詞:板折信太郎氏)という素
晴らしい聖歌があります。こ
の聖歌は「どこに出かけるの
か」という問いに示唆を与え
てくれます。引用します。

① ぼくたちの力は弱いけど
一人ひとりの心は小さいけど
ぼくたちの力は強くなる
みんなの力を集めれば
何でもできる
*さあ 出かけよう
手をつないで 心をつないで
イエス様はみんなを
結んでくれる
さあ出かけよう世界中へ
手をつないで 心をつないで

② ぼくたちの小さな力だけれど
一人ひとりの心の橋をつないで
みんなの力を集めよう
誰かのために
*くりかえし
今年2025年は「聖年」
です。教皇フランシスコ「希望
は欺かない二〇二五年の
通常聖年公布の大勅書」に
もあるとおり、聖年のテーマ
は「希望の巡礼者」です。教
皇フランシスコは「すべての
人は希望を抱きます。明日
は何が起こるか分からない
とはいえ、希望はよいものへの
願望と期待として、一人
ひとりの心の中に宿っていま
す」と誰もが「希望」を持っ
ていると説きます。

聖年のロゴマークには、4
人の人物が固く抱き合い、
荒波を越えている様子が描
かれています。先頭の人の手
は十字架をつかみ、その十
字架は下に長く伸びて「錨」
になっています。「錨」は船舶
をしっかりと安定させるので、
「希望の錨」というよう
です。まさに「錨」がついて
いるこの「十字架」こそが、私
たちの「希望」です。

た移民や貧困層などの社会
的に弱い立場に追いやられ
ている方々、さらに人の人生
を壊すネットの恐ろしさが
語られています。教会内では
多言語圏の相互理解、奉仕
者の高齢化など中長期で考
えるべき課題があります。

ロゴマークの固く抱き合
う4人は四方から集まる人
を表します。聖イグナチオ
教会も首都圏の東西南北、
四方から人が集まります。
加えて日本語、英語、スベ
イン語、ベトナム語、インドネ
シア語、ポルトガル語、ポー
ランド語、7つの言語圏の人々
が集っています。

我々は聖年を通じ、聖イ
グナチオ教会共同体として、
神様の特別なお恵みをいた
だきながら、どのような希望
を見出し育てて未来の像を
示してゆくか。我々はこのよ
うに愛し合い、支え合い、繋
がり合って行動し、「希望」
を実現してゆくか。

今年度の教会テーマに
は皆さまとこれらのこと
に正面から向き合おうと
いう趣旨を込めました。皆
さま2025年度も「誰
かのために」「世界中へ」共
に出かけてまいります。



現聖堂25周年 感謝のうちに閉幕

現聖堂25周年実行委員会 運営委員長

2022年の教会祭と並行して準備委員会を開設し、テーマ「さあ出かけよう 心をつないで イエスとともに」のもとに、献堂記念国際ミサ、イベント、記録の3チームが発足しました。若者とインターナショナルの2チームが加わり、試行錯誤を繰り返してコラボレーションしました。国の違いを越えた協働は徐々に形を成し、2024年10月13日(日)の国際記念ミサでの盛り上がりは年齢、国籍、性別の垣根を越えて「ともに歩いていく教会」の体験を多くの方々と分かち合う場となりました。



▲ミサの中で、タイムカプセルに納める品々が奉納された

ました。国際記念ミサで主司式をされたアンドレア・レンボ補佐司教様の「この教会は東京の中心に位置し、特別な使命を持っていると思います。多様な国籍、文化、言語を持つ人々が互いに理解し、支え合う場所です」という言葉をしっかりと受け止め、これからもともに歩いていけることを願います。当日、準備した記念品は皆様に喜んでいただけたことと思います。

記念の年を通して、多くのイベントが行われました。献堂とともに設置され一緒に25歳を迎えたパイプオルガンのコンサートでは、オルガンの音色と歌声が信徒を一つにしました。教会として数年振りの巡礼では、五島と高山右近ゆかりの地で、守り継がれてきた信仰を心に刻みました。教会の希望である子どもと若者たちのこれからを考えるシンポジウムでは、子どもと若者たちを育む各グループがつながり

を強め、課題を共有しました。ペドロ・アルペ神父様の生き方について、講話と分かち合いにより理解を深めることもできました。他にも大小さまざまなイベントを通じて、これまで築き上げられた歴史を未来につなぐための機会が得られました。

記念誌の作成は、先人たちが紡いできた歴史をあらためて認識し、デジタル化に向けて動き始めました。タイムカプセルは活動グループが色紙に思いを記し、インターナショナルの方々にも参加をお願いしました。その輪は一般信徒の方々にも広がり、多くの一言メッセージを書いていただき、3月30日(日)18時のミサで奉納しました。また25年前のタイムカプセルに納められていた「新教会建設のための祈り」を引き継ぎながら「ともに歩む教会の祈り」が新たに作成されミサの中で唱えられました。今後も教会の祈りとして広がっていくことでしょう。

25周年の大きな実りを振り返り、「ここまでの聖霊のお導きに感謝いたします。この息吹が麹町教会100周年へと広がっていきますよう祈ります。

ります。最後になりましたが、新聖堂献堂にご尽力くださった池尻廣幸神父様が本年2月13日に帰天されました。

中長期計画策定準備委員会が発足

中長期計画策定準備委員会 委員長

カトリック教会は、常に「時のしるし」を読み取りながら、神の教会の建設に努力してきました。聖イグナチオ教会は、現聖堂献堂時から「意識の転換」、その後「ミッション2030」とみ

旨に沿った共同体制作りを目指して活動してきました。2030年まで後5年となった今、またその先を視野に入れた「希望の巡礼」へ、司祭方・信徒の皆さまと共に歩み出したいと思えます。

この委員会の目的としては、前述の2つの活動の成果を地盤として、改めてこの教会の良さや弱さを知り、受け入れて、それらを神の恵みとして生かす「未来の聖イグナチオ教会のビジョンとパストラル・プラン」を聖霊の導きの内に探り当てること。そして、実現に向けて

感謝とともに永遠の安息をお祈りいたします。加えてこれまで教会にご奉仕くださった諸先輩方にも御礼を申し上げます。

共同全体にそれに参加していただけることが期待されていると考えます。

今回はまず準備委員会が立ち上がりました(7月参照)。私たち10名の準備委員の誰もが、これは神からの使命だと考えなければ、委員をお受けすることは難しいことでした。3月11日(火)、第一回準備委員会は、高祖敏明神父様の司式により主の祝福と恵みを願うミサから始まりました。今後も常に皆で祈りの機会を持ち、識別しながら準備していきます。また、適切な時期に本委員会に移行し、委員も適宜交代しながら進めていく予定です。信徒の皆さま、私たちが共に神のよい働き手となれますように、互いに心をつないで、ご一緒にお祈りくださいませ。

教会行事

3月の主な教会行事をご紹介します。

●灰の水曜日

3月5日(水)7時、12時、19時のミサで灰の水曜日のミサが行われました。

12時のミサで司式の大西崇生神父は、主聖堂を埋め尽くした参列者を前に、次のように話されました。「昔お世話になった神父様は『ゆるしの奇跡』について、こう話されました。『もしも部屋の灯りが暗かったら、そこに置いてあるものの輪郭はぼやけてしまうでしょう。しかし灯りが強ければ、はっきり

とよく輪郭が見えてくるものですよ。つまり、神のまなざしの光が強ければ私たちの罪の認識もはっきりする、というわけです。この四旬節、光である神に近づけるよう、日々過ごしてまいりましょう。」

●洗礼志願式

3月9日(日)10時のミサの中で、洗礼志願者60名の洗礼志願式が行われました。志願者には使徒信条の授与、塗油、祝福が授けられ、主司式の高祖敏明主任司祭は以下のように話されました。

「今日の福音朗読では『信仰告白』が大きなテーマになっています。3つの誘惑はエジプトでの奴隷状態から救われ、40日間の旅で民に養われていった信仰告白を背景としています。

まず、最初の誘惑は『神の子なら、目の前の石をパンにして腹いっぱい食べたらどうだ?』。イエス様はそれに対して、『人はパンだけで生きるものではない』と書いてある、とお答えになります。申命記では『主の口から出るすべての言葉によって生きる

ことを知らせるためであった』というふうに言っています。2つ目の誘惑。『私を拝むなら国々の一切の権力と繁栄を与えるが、私の手下にならないか?』。イエス様は『モーセがいない間、金の子牛の像を神とした民に向かって、『あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ』と書いてある、とお答えになります。名譽、権力、繁栄を神のように思って追求してしまう誘惑です。3つ目の誘惑。『神の子なら、エルサレムの神殿の屋根から飛び降りて、奇跡を皆に示して信望を高めたらどうだ?』。水のない荒野で『水を与えよ』と民は神の力を試そうとし、神を従わせようとします。申命記

には『主の目にかなう正しいことを行いなさい。そうすればあなたは幸いを得る』とあり、私たちが神に従って生きていくということを私たちに教えていると思います。

この3つの誘惑は日常でよく体験することです。私たちがイエスに従って生きるように招かれています。イエスは聖霊に満ちて、誘惑に対処しておられます。私たちも洗礼を受けることで罪から清められ、聖霊を注がれてイエスを復活させた神の命に加えられます。洗礼志願者のために祈るとともに、私たちがさらに聖霊を豊かにいただいた誘惑に打ち勝ち、神様の招きに従って生きる恵みを祈りましょう。」

●十字架の道行

十字架の道行は聖堂内にかけてられた絵や彫刻(第一〜14留)の前で、キリストの受難を黙想しながら祈る伝統的な信心業です。

今年度は3月7日(金)から聖週間前までの毎週金曜日18時45分よりマリア聖堂にて、4月18日聖金曜日は15時から主聖堂にて行われました。

ついでに...最終回

3月2日(日)16時から、マリア聖堂のポルトガル語ミサに7名で参加しました。

ミサは青木勲神父(マリア会)とジャン・クラウケンスキ神父(スカラブリニ宣教会)の共同司式で行われ、一人の青年の洗礼式もあり恵みに満ちたひとときでした。

「感じる」ことを大切にして参加しましたが、祭壇から降り、会衆に近い場で説教する司祭の温かさが伝わって、印象的なミサでした。ミサ後、受洗者との写真撮影や談笑が続く、聖堂を離れたいと感じるほどでした。日本人グループの受け入れに、細やかに配慮してくださった [] さんに感謝します。

毎回「つながるプロジェクト」に参加した男性は「すべてのミサに参加し、カトリックの一体性と多様性を感じた。まるで世界一周をしたよう」と感想を語ってくれました。


今回で一区切りとなった当プロジェクト。参加してくださった皆様にお礼申し上げます。



1981年来日し、広島
の地から「平和アピール」を
日本語で語られたヨハネ・パ
ウロ二世は、1990年1月

第二バチカン公会議が閉
会して60年が経ちました。カ
トリック教会は人間や社会
にかかわる諸問題に対して
積極的に関与する、と宣言
した公会議でした。
そこで環境問題が主題と
して正式に取り上げられた
とまでは言えませんが、公会
議以降の教皇がた、ことにヨ
ハネ・パウロ二世とベネディ
クト十六世は環境問題を明
確に主題化し信仰上の重要
課題と公言されました。

歴代教皇と環境問題



St. Ignatius Church, Tokyo
Established 1551

〈現聖堂25周年記念連載〉⑩
すべてのいのちを守るために
イエズス会・日本カトリック司教協議会
「ラウダート・シ」デスク秘書
瀬本正之神父

瀬本正之神父

1日の教皇メッセージで、環
境問題を生態学的危機とし
て取り上げ、その克服は全
人類が共同責任を負うべき
道徳的な課題であると述べ
られました。

2010年元日、教皇ベネ
ディクト十六世は「平和を
築くことを望むなら、被造
物を守りなさい」と題する
メッセージを出されました。

現教皇フランシスコは
2015年に回勅「ラウダー
ト・シ」を出され、その中で、
全教会を挙げて環境問題
に取り組むという意思を
示されました。その4年後
の2019年11月の訪日の
テーマは、「すべてのいのちを
守るため」でした。

私たちの生活と環境

ところで、私は今日ここ四
谷にバスと電車を乗り継い
で来ました。皆さんは乗り
物に乗った時に、二酸化炭素
や硫酸酸化物などが排出さ

れているかも知れないと気
遣ったことはありませんか。自
分が利用するものやその使
用法が地球にどんな影響を
及ぼすかと自問したことは
ありますか。

私たちの日々の活動の多
くは経済活動と言えるで
しょう。一切ものを買わずに
生活するのは至難のわざで
す。今買おうとしているもの
は本当に必要なものでしょ
うか。持っているお金を何にど
う使うのが望ましいのでしょ
うか。そうしたことを倫理
的、道徳的な観点から見直
してみようと思ったことはあ
りませんか。

造られたすべてのものを
なるべく守り活かすのは私
たち人間の責任、と言われ
てもピンとこないでしょう
か。自分の生活や行動が周
りにどのような影響を与え
るかを考える習慣を身につ
けてみませんか。それは、人
間としての責任を引き受け
る一押しになるでしょう。

「エコロジー」とは何か

昔、たくさん鹿がいる奈
良の公園に行ったことがあ
ります。鹿が鹿らしく生き
られる条件って何でしょう。

人里に下りて来て畑を荒ら
すイノシシの報道を耳にし
たことがあります。イノシシ
がイノシシらしく生きられ
る条件は何でしょう。

生きている何かが生き続
けていくには、水分や養分、
温度や湿度といった然るべき
条件が満たされていること
が必要です。いのちある何か
が生きていける条件をその
いのちの環境として受け止
め、研究を進めるのが「エコ
ロジー」です。エコロジーの真
ん中にはいつもいのちがある
のです。

人間が人間らしく生きて
いけるには、ともに生きてい
るいのちあるすべてのものに
よって紡がれる「生命の織
物」が健やかでなければなら
ないでしょう。人間も、人間
以外の生きものも、自然環
境が健やかでなければ、いき
いきと生きていくことはでき
ません。

エコロジーの心

生活すればゴミは出るも
のです。ゴミの量や出し方は
適切かと自問することから
始めることもできます。

私（たち）が出すゴミは、
多くの場合、誰かの手を介

し、最終的には自然界の働き
に委ねられます。ゴミを引き
受けてくれる人や自然が扱
いやすい仕方です。捨てるよう
心掛ける必要があります。

自然界には処理できる量
や処理するスピードがあり
ます。それらを超過するゴ
ミ出しは控える、という配
慮が求められます。「エコロ
ジーの心」ってそういうもの
ではないでしょうか。

12月には「教会を我が家
と使って使おう」という分か
ち合いのパートナーがあり、今
回はそれに続くパートナーで
あると聞いています。

誘い合ってゴミ焼却場を
見学に行くとか、この小教区
が生活の実感を共にできる
家庭のような場になれば、と
願います。現状をしっかりと
認識し、その現状の中で自
分に何ができるのかを心を
合わせて、皆で考え、手を携
えて実践を重ねていければ、
嬉しいですね。



ミッション2030プロジェクトチーム
では、「すべてのいのちを守るために」
をテーマに講話と分かち合いを行いま
した。本稿は2025年1月26日(日)
に行われた内容を抜粋・編集したも
のです。



「神は夢見る方です。私たちは神の夢を担っています」と、フランススコ教皇はおっしゃいます。神の夢と私たちの夢が一致する時、それは祈りとなり、ミッションとなります。そしてその夢の表現の場が教会活動です。ただし教皇は、「活動する前にイエスを見つめなさい」と言われます。

イエスを見つめた時に思い浮かぶ愛の眼差し、微笑み、やさしさ、そうしたイエスの姿を心の内に受け入れ、癒され、自分もそれを表したいと湧き上がる思い、それが宣



St. Ignatius Church, Tokyo
Established 1551

〈現聖堂25周年記念連載〉最終回

主よ、私たちに何を望みますか

教会活動について考えてみよう

クラレチアン宣教会・上智大学神学部講師

増田健神父

主を見つめ、主とともに

教の源泉、教会活動の源です。教会活動とは、自分にてきることを通して皆で共にイエスを表現することです。様々なつながりの中で

昨秋発表されたシノドス最終文書のキーワードの一つが「つながり」です。聖イグナチオ教会の活動グループは、どのようなつながりの中にいるのでしょうか。

第一は「神とのつながり」です。「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいる」(マタイ18:20)というイエスの約束を信じ、神との交わりである祈りを大切にしましょう。活動の前に皆で祈る。聖書を皆で読み、分かち合い、みことばに照らされながら活動について考えてみる、といったことを心がけてください。

二つ目は「仲間とのつながり」です。皆さんのグループ

は温かな雰囲気ですか。イエスはすべての人を温かく迎えてくれる方です。悪口を言ったりしていませんか。「祝福」という語の語源は「良く言う」です。神

語源は「良く言う」です。神が私たちが祝福される時、「あなたは素晴らしい」「あなたを愛している」と言ってくださっているのです。私たちが互いに祝福しあうと、そこから神の愛があふれ出ます。それが宣教です。悪口を言う、そこで神の祝福を止めてしまいます。

三つ目は「教会とのつながり」です。多様な活動グループや言語グループがあるのは恵みですが、いずれも聖イグナチオ教会という小教区の一員です。主任司祭と信頼関係を保ち、共に歩むことが不可欠です。

そして一つの信仰の家族を形作っているのですから、同じ一つの心をもつために共に祈り、識別してください。その一つの心を、炊き出し、祈り、講座、料理など、様々な形で表現するのが教会の活動グループです。

その表現方法は、状況により変わることもありま

後とでは、適切な活動の方法が違いかもしれないから

夢を実現する識別

私たちは神の夢を担っているという話をしました。その夢、特に小教区としての夢を叶えるために、グループで行う識別の一例を紹介したいと思います。

①皆で祈り、夢を決める：例えば当教会の場合、「ミッション2030」の方針がこれに当たるでしょう。

②夢を叶えるための具体的な設計図を作る：例えば「2030年には悩んでいる人を温かく迎える教会になる！」というふうには、夢に沿った具体的な設計図をリストアップします。

③設計図を実現するための決意をする：例えば「悩む人の中でも、特に若者を受け入れる体制を作ろう！」と具体的な決意をします。

④各グループで協力し、決意を実現するための計画を考え、行動につなげる：悩む若者を受け入れるには、安心して話せる場、話を聞く人、もてなしの菓子、若者

が楽しく参加できる活動、いろいろが必要で

以上はあくまでも一例です。多様なグループが同じ目標に関わり協力しあうことで宣教となり、横のつながりができ、教会のミッションが深まっています。

また、すべての教会活動は東京教区との絆の中に位置づけられる、ということも忘れないでおきましょう。

そして聖霊の息吹を受けるために、世界へつながる窓を開け、顧みられていない人々や被造物に心を寄せてください。彼らこそイエスの苦しみを生き、神の救いを願っているからです。

私たちは教会で神と出会い、いのちをいただき、生かされています。おの表現方法で母なる教会のいのちと愛を分かち合い、伝えていきましょう。



ミッション2030プロジェクトチームでは、現聖堂25周年の記念として講話・黙想・霊における会話をいたしました。本稿は2025年2月23日(日)に行われた内容を抜粋・編集したものです。



Family of St. Ignatius

英語圏から

2025年聖年

「キリストにおける救いという確かな希望を心に呼び起こす、神の愛の生きた体験がもたらされます」(「希望は欺かない」6)。教皇フランシスコの言葉で、英語グループの心は燃え上がりました。聖年について、信仰生活との関係について、もっと知りたいと切望しています。

最初に「巡礼」を企画したのは、日曜学校のティーンズグループでした。3月22日、23日に聖イグナチオ教会に泊まり、ポスター作り、寸劇、ゲームを通して、「巡礼者であるとは？ 希望とは？ どうすれば希望の巡礼者になれ

るのか?」といった疑問について考えました。この体験は、翌日の教会での巡礼で、最高潮に達しました。

2 番目は、英語共同体のリーダーや奉仕者たちです。4月5日に、ロバート・キエサ神父の指導による四旬節黙想会に参加し、続いて神田、築地、高輪の3教会を巡礼しました。44人の「巡礼者」は免償を受け、これらの教会の守護聖人であり、希望の模範である聖フランシスコ・ザビエル、聖ヨセフ、江戸の殉教者について学びました。多くの参加者にとって、江戸時代の迫害の展示を通して、日本の教会の崇高な歴史について学ぶ初めての機会となりました。

(シスター フロール・フロレーセ)

2025年度信徒評議員

信徒代表
信徒副代表
信徒評議員



(敬称略、順不同)

中長期計画策定準備委員会

委員長
副委員長
委員



(敬称略、順不同)

2025年度財務委員会

委員長
委員
監事
事務室担当



(敬称略・順不同)

2025年度施設委員会

担当司祭
委員長
委員
コンサルタント
事務室担当



(敬称略・順不同)

聖体奉仕者任命

東京大司教から、今年新たに当教会聖体奉仕者に任命され、任命書を授与された方は、以下の通りです。



(申請順、敬称略)

宣教司牧評議会からのお知らせ

3月(3月6日実施)

- 1. 中長期計画策定準備委員会が、委員10名で発足しました。中長期計画策定委員会の設置に向けて課題の洗い出し等、準備を進めていきます。
- 2. 「ともに歩む教会の祈り」が作成されました。現聖堂献堂時の「新教会建設のための祈り」を基に、教会の現状に合う形のお祈りです。皆さま、ともに祈りましょう。
- 3. 聖年「青年の祝祭」巡礼派遣団が結成され、10名の若者が派遣されます。勉強会や献金活動を行いながら巡礼出発まで準備を重ねていきます。皆さま、お祈りください。

4月(4月3日実施)

- 1. ミッション2030プロジェクトチームより、ミッション2030小委員会の終了に伴い2025年3月をもって活動終了の報告がありました。
- 2. 歓送迎会は5月11日(日)10時ミサ後に行われます。

協力司祭と神学生

- ・ 4月からジェリー・クスmano神父が協力司祭としてイエズス会神学院から着任されました。
- ・ 3月末で中村健三神父は協力司祭を退任されました。
- ・ 4月からアントニオ・マリオ・ダ・コスタ・ソアレス神学生が養成課程の中間期として使徒職活動をされます。

あしたのいえプロジェクト 活動報告会と講演会

日時：5月10日(土) 13:30～15:00

場所：ヨセフホール

- 内容：1. 2024年度の活動を振り返って
- 2. 「日本で暮らす外国人の困難と私たちにできること」-伴走型支援の現場から

講師：一般社団法人レガートおおた 代表理事 石井さわ子氏

申込：講演会のチラシから、QRコードから、または「あしたのいえ」に直接お問合せください。(03-3263-4584、月・水・金 曜日の11時～19時) ご参加お待ちしております！



5月の典礼と行事

最新情報は聖イグナチオ教会ホームページでご確認ください。

| | | |
|--------|-----------|--|
| 1 (木) | 労働者聖ヨセフの日 | |
| 2 (金) | 初金曜日 | |
| 4 (日) | 復活節第3主日 | 改宗式 10:00 ミサ 日曜サロン・ミニオリエンテーション 11:00～12:30 ヨセフホール |
| 11 (日) | 復活節第4主日 | 子どもとともにささげるミサ 10:00 教会案内ツアー ①10:30 ②11:00 受付 9:30～ 歓送迎会 10:00 ミサ後 ヨセフホール |
| 14 (水) | | 傾聴ルーム 11:15～15:00 ヨセフホール 水曜ティーサロン 12:00 ミサ後 |
| 18 (日) | 復活節第5主日 | 堅信準備会① 11:15 ミサがわかるセミナー 13:00 ヨセフホール |
| 21 (水) | | クリプタに安置され5月に命日を迎える方々のためのミサ 12:00 堅信準備会(平日①) 18:45 「社会問題とカトリック教会の考え 2025年度連続セミナー」 18:30 ヨセフホール シノドスの教会 - 誰も排除されない、誰とも共に歩む教会を目指して - 今年のテーマとセミナーのやりかた - シノドスの呼びかけにこたえよう - ポネット・ピセンテ神父 |
| 22 (木) | | ヤングオールド映画会 「長崎の鐘」 13:00 ヨセフホール |
| 25 (日) | 復活節第6主日 | 堅信準備会② 11:15 教会活動連絡会議 13:00 ヨセフホール リビングロザリー 16:30 |
| 28 (水) | | 傾聴ルーム 11:15～15:00 ヨセフホール 水曜ティーサロン 12:00 ミサ後 堅信準備会(平日②) 18:45 |
| 31 (土) | 聖母の訪問の記念日 | 教会大掃除 9:00～ |

*マジス 5月号は5月18日(日) 発行予定です。

主任司祭：高祖 敏明

助任司祭：ボニー・ジェームス
グエン・タン・ニャー
サトルニ・オチョア
柴田 潔

協力司祭：ジェリー・クスmano
ハビエル・ガラルダ
グエン・ヴァン・テー
関根 悦雄
マヌエル・シルゴ

神学生：アントニオ・マリオ・ダ・
コスタ・ソアレス

シスター：マルセラ・ロサス
フロール・フロレーセ
ジェスリン・プエンディア

ミサ参加方法はホームページ、教会事務室で確認してください。

ミサの時間 Mass

【平日 Weekday】主聖堂 Main Chapel
7:00/12:00/18:00

【土、日曜日 Saturday & Sunday】主聖堂 Main Chapel
土曜 18:00/19:30 (Việt Nam)
日曜 7:00/8:30/10:00/18:00
12:00 (English) /13:30 (Español) /
15:00 (Việt Nam)

【月の第1日曜日 1st Sunday】
Our Lady's Chapel
12:30 (Português) /16:00 (Polski)

【月の第2第4日曜日 2nd & 4th Sunday】
Our Lady's Chapel 16:30 (Indonesian)

「マジス」へのご意見ご要望などのお便りは事務室までお寄せください。

カトリック麹町教会 (聖イグナチオ教会)

〒102 - 0083
千代田区麹町 6 - 5 - 1
TEL 03 - 3263 - 4584
FAX 03 - 3263 - 4585
<http://www.ignatius.gr.jp>



Linktree (リンクツリー)
リンクツリー (linktree) とは多
数のリンクをまとめて表示して
いるツールのことです。このQR
コードを読み取ると教会ホーム
ページ、教会ガイド、Twitter、
Facebook、Instagram、
YouTubeへアクセスできます。